

幼保小の **架け橋** プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の教育の充実のために、みなさんの取組に活かしてください。

1年生で学習する単元より

【算数】「かずとすうじ～10よりおおきかず～
～20までの数の概念、命数法、合成・分解～」

年長の時に、園庭で採れた柿の実を、ブルーシートの上に10個ずつ並べて、数える経験をしていました。この経験を思い起こす子どもがいるかもしれません。



R4年度芦穂崎保育園
年長児の活動の様子より

【生活】「きれいにさいてね」
～花の種をまいて、自分で育てる～

園で花や野菜を育てた経験をもつ子どももいます。育てた花で色水遊びをしたり、収穫した野菜を食べたりした子どもは、今度はどんな願いをもって活動に取り組むでしょう。



R4年度ベネッセ日吉保育園
探究心を育む『遊び』研究会発表より

入学前の子どもの経験、学びを知るためには・・・

- 要録に書かれた内容を確認する。
- 保育士・幼稚園教諭に直接尋ねる。
- 園を訪問し、活動の様子や環境を実際に見る。

といったリサーチが考えられますが、なんととってもいちばん大切なのは、**「子どもに直接尋ねる」**ことです。「園ではどんなことをしたの?」と、聞いてみましょう!

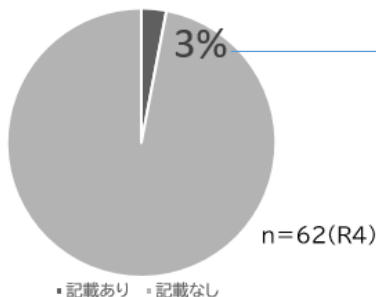
学習指導案の中に、園での経験は記載していますか?

学習指導案を作成するときには、「この学習を通してどんな資質・能力を育成するのか」を考えます。

そのときもう一つ大切なのは、「この学習に臨む子どもには、どんな先行経験があり、どんな実態なのか」ということです。指導案の中に、「児童の実態」として記載されることも多いことでしょう。

新年度を迎えてからの様子、他の教科等での学びの経験、既習単元の内容などが書かれることが多いですが、**1年生の実態に表れる経験や学びとは、入学してからのことだけなのではないでしょうか?**

小1指導案における入学前の経験の記載



幼児期に培った学習の芽生えを小学校で伸ばしていく上で、今後注目していきたい数値です。

<記載されていた内容の紹介>

【音楽】おとをあわせてえんそうしよう

「本学級の児童は、小学校入学前から豊かに歌う活動に取り組んだり、手拍子や足踏みをして表現をしながら音楽を楽しんだりする経験を積み重ねてきている。」

※このように、園での経験を踏まえるとねらいや目指す子どもの姿が具体的にイメージでき、授業改善につながります。

令和5年度は、架け橋プログラムへの取組として、1年生の指導案の「児童の実態」に入学前の経験も含めて記載してみませんか?